

感染症についてのお知らせ

墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

令和6年
5月号



東京都内の感染症流行情報

第17週（4月22日～4月28日）の定点当たり報告数 RSウイルス 東京都定点医療機関当たり患者報告数
・インフルエンザ

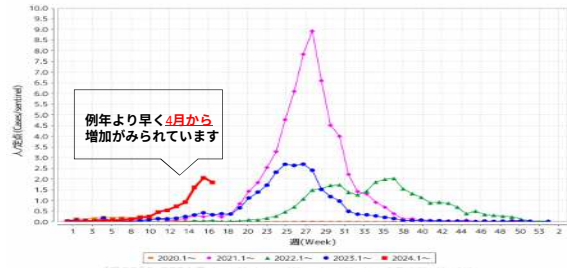
東京都 0.72人/週 前週（1.21人/週）
墨田区 0.71人/週 前週（1.50人/週）

・新型コロナウイルス感染症

東京都 2.39人/週 前週（2.77人/週）
墨田区 3.14人/週 前週（4.75人/週）

・RSウイルス

東京都 1.84人/週 前週（2.05人/週）
墨田区 **3.75人/週** 前週（2.00人/週）



引用元：東京都感染症情報センター

RSウイルス感染症 例年より早い4月から報告数の増加がみられています！

●どんな病気なの？

▶ RSウイルスによる感染症で、症状としては、**軽度の風邪様の症状から、重度の肺炎**まで様々です。低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある方では、重症化のリスクが高いといわれています。感染しても免疫は獲得されないため、どの年齢でも再感染は起こりますが、一般的には年長児以降の年齢では重症化はしません。初めて感染した場合は症状が重くなりやすいといわれており、**乳幼児期、特に1才以下でRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。**

●どのくらい多いの？

- ▶ 例年冬季に流行が見られていましたが、近年は7月ごろから報告数が増加傾向となっています。上のグラフでピンク色となっている、**過去最高の報告となった2021年は5月から増加がみられ、7月に感染の最大のピークを迎えました。**
- ▶ 東京都も増加の傾向はありますが、**墨田区では定点報告数が東京都より第17週は1.5倍の報告となっています。**
- ▶ 学校等欠席者・感染症情報システムでも、特に保育園での感染が拡大している数値を示しています。

◆どうやってうつるの？

RSウイルス感染症は、ウイルスに感染している人の咳やくしゃみ、または会話の際に飛び散るしぶきを吸い込んで起こる飛沫感染と、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、スイッチ、机、いす、おもちゃ、コップ等）を触ったり、なめたりすることで起こる接触感染があります。

潜伏期間は4～6日といわれています。



また、2歳以上で再感染・再々感染した場合に、症状としては軽い咳や鼻水程度しか見られず、医療機関を受診する程度ではないことがあります。そのため年長児や保護者、職員が感染源となり、周囲の感染拡大の要因となることがあります。

◆どうやって防ぐの？

咳などの呼吸器症状がある年長児やおとなは、可能な限り0～1歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防につながります。

接触感染の予防は、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどをこまめにアルコール又は塩素系の消毒剤などで消毒することと、流水と石けんによる手洗いが重要です。また、咳などの症状がある場合にはマスクを着用するなど咳エチケットが有効です。

◆かかった時の登園の目安について

り患した場合の登園のめやすは、「呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと」とされています。

手足口病 今年夏に流行する感染症がすでに増えてきています！

墨田区内の保育園で今年すでに集団発生報告がありました。

●手足口病ってどんな病気？

◆手足口病は、エンテロウイルス属のウイルスによって引きこされる感染症で、5歳以下の乳幼児を中心に例年は6月ごろから感染が見られ、夏に流行する感染症です。

主な症状は、口の中、手のひら、足の裏などにできる2～3mmの水疱性の発しんで、3～7日程度で消失します。その他には発熱、食欲不振、のどの痛みなどの症状がみられます。基本的に予後は良好ですが、合併症としてまれに髄膜炎や脳炎を起こすこともあります。特別な治療法は無く、対症療法が中心となります。

◆手足口病は、ウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、手についたウイルスが口に入ったりすることで感染します。

症状が治まった後も、患者さんの便の中には2～4週間程度、長いと数か月間ウイルスが含まれるためトイレ使用時やおむつ交換の際には注意が必要です。また、アルコール消毒剤が効きにくいいため、おもちゃなどの消毒は次亜塩素酸ナトリウム水溶液が有効です。

●手足口病に感染するとどうなる？

◆手足口病にはワクチンがありません。

感染予防にはこまめな手洗いが有効で、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前には手洗いを心がけ、集団生活ではタオルの共有は避けましょう。また、咳やくしゃみをするときには、口と鼻をティッシュでおおう等咳エチケットを心がけましょう。

手洗いが正しくできているか、今だからこそ見直してみましょう

まだまだ治療薬や対処法がない病気がたくさんあります。

自分自身か感染をしないために、主に飛沫感染や、接触感染の予防は正しい手洗いが重要です。

適切な手洗いとは？

①手洗いのタイミング

細菌やウイルスは、感染症にかかっている人の手のひらや、その人が触ったドアノブ、手すり、テーブルなどに付着していることがあります。こういった場所を触れたことで、自分の手のひらや指に細菌やウイルスが付着している状態で、自分の目、鼻、口などの粘膜を触ることで感染してしまう可能性があります。そのため、これらのものを触った後が手洗いをする「タイミング」です。お子さんの場合こまめに手洗いをするのは難しいことが多いと思いますので、外から帰ってきた時、ごはんを食べる前、トイレの後に手を洗うのを習慣にするとよいでしょう。

②正しい手洗いの方法

ハンドソープでも、アルコールでも、手のひらだけでなく手の甲や指の間、爪の先までしっかりと洗うことが大切です。きちんと手洗いをしようと思うと、15秒程度はかかります（ご自身やお子さんが何秒くらい手洗いにかけているか、一度測ってみてください）。石けんによる手洗いの正しいやり方を記載しますので、是非参考にしてみてください。



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのばすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。



手首も忘れずに洗います。



このお知らせは、東京都感染症情報センター (<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>) の情報及び東京都健康安全研究センターが集計を行った「東京都感染症発生動向調査週報」 (<https://survey.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/epidinfo/epimenu.do>) の情報をもとに作成しています。